

農業共済新聞 千葉版

掲載号	5 月 4 週号		
筆者	所属	農林総合研究センター	
	職名及び氏名	病理昆虫研究室長	牛尾 進吾
題名	ナシ黒星病の減農薬防除をアシストする「梨病害防除ナビゲーション」		
備考	【図説明】「梨病害防除ナビゲーション」の画面		

【本文】

千葉県における日本ナシの収穫量は 39,400 t（平成 20 年産「果実生産出荷統計」）で全国第 1 位となっています。主要品種は、「幸水」、「豊水」であり、これらの品種の最も被害の大きい地上部病害はナシ黒星病です。このため、ナシの病害防除体系は黒星病を中心に組み立てられており、常に、農薬による保護効果がとぎれないような防除体系となっています。しかし、農薬の残効やナシの生育状況、気象条件等により防除要否を適切に判断すれば、農薬の使用回数を削減することが可能です。そこで、この判断を容易にするナシ病害防除支援情報システム「梨病害防除ナビゲーション（梨ナビ）」を開発しました。

「梨ナビ」はパソコンの表計算ソフト Microsoft Excel 2003 上で稼働し、ナシ開花日、ナシ黒星病感染危険度、農薬散布日と散布農薬を入力設定すると、病害防除支援チャート（図）として、黒星病の伝染源の胞子の飛散状況、黒星病の重要な防除時期であるナシの黒星病に対する感受性が特に高い期間、散布された農薬の残効期間等の情報をパソコン上に表示します。ナシ黒星病菌がナシに感染するためには、18℃前後の気温で葉や果実が一定時間以上濡れた状態が続く必要があります。このため、黒星病感染危険度はナシ園に設置した小型温湿度計のデータをもとに計算します。

ナシ黒星病のための農薬使用回数は、耕種的防除を徹底してナシ園内の黒星病菌の密度をできるだけ低く抑えたうえで、「梨ナビ」のチャートに示された黒星病の発生の危険性や農薬の残効期間などの情報をもとに、的確な薬剤散布を行うと削減できます。

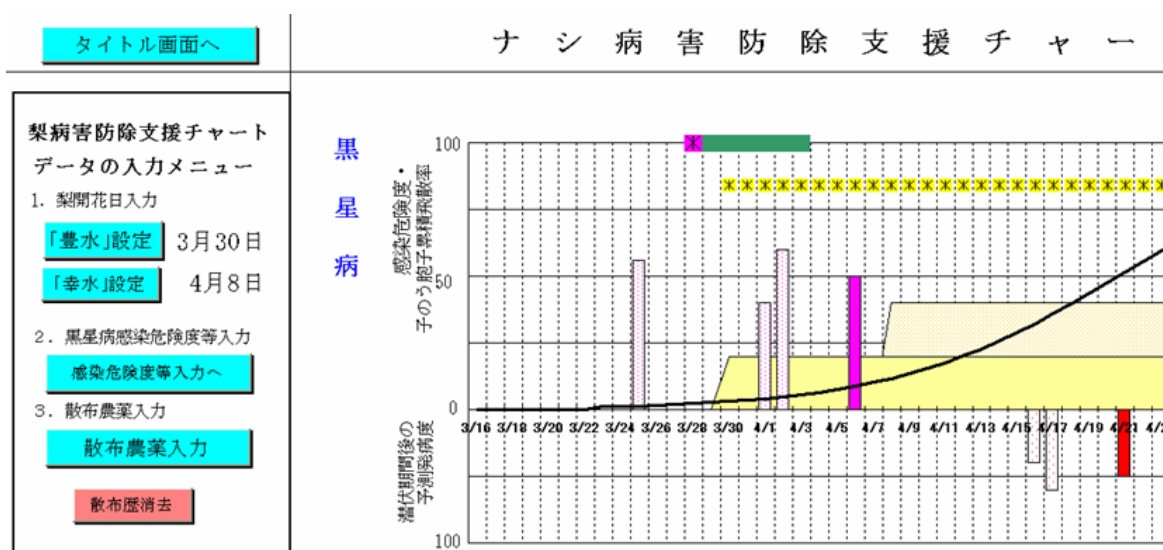


図 梨病害防除ナビゲーションの病害防除支援チャート（一例）